議 事 録

会 議 の 名 称	第4回小美玉市小学校（小川小学校・橘小学校）統合準備委員会																																				
開 催 日 時	平成27年11月27日（金） 19時00分～																																				
開 催 場 所	小川運動公園 多目的施設																																				
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>会田 正彦</td> <td>代々木 孝</td> <td>岡根 典子</td> <td>石田 進</td> </tr> <tr> <td>稲田 雅志</td> <td>久保田輝男</td> <td>長谷川美智子</td> <td>檜山 章一</td> </tr> <tr> <td>小島 健一</td> <td>長島 功</td> <td>近藤 貞夫</td> <td>中村 強</td> </tr> <tr> <td>藤井 敏生</td> <td>笹目 雄一</td> <td>長島 主</td> <td></td> </tr> </table> <p>【欠席委員】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>高野 雄司</td> <td>伊野 勝亮</td> <td>千葉 栄子</td> <td>川名 美佐</td> </tr> <tr> <td>藤崎 剛</td> <td>新谷 大輔</td> <td>竹内 文枝</td> <td>柏 敬祐</td> </tr> <tr> <td>平本 敏彦</td> <td>萩原 茂</td> <td>笹木 倫代</td> <td>山中 光枝</td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>加瀬 博正</td> <td>長谷川正典</td> <td>皆藤 正造</td> <td>鈴木 定男</td> </tr> <tr> <td>比気 龍司</td> <td>小林 利英</td> <td>田山 伸一</td> <td>田村 直弥</td> </tr> </table>	会田 正彦	代々木 孝	岡根 典子	石田 進	稲田 雅志	久保田輝男	長谷川美智子	檜山 章一	小島 健一	長島 功	近藤 貞夫	中村 強	藤井 敏生	笹目 雄一	長島 主		高野 雄司	伊野 勝亮	千葉 栄子	川名 美佐	藤崎 剛	新谷 大輔	竹内 文枝	柏 敬祐	平本 敏彦	萩原 茂	笹木 倫代	山中 光枝	加瀬 博正	長谷川正典	皆藤 正造	鈴木 定男	比気 龍司	小林 利英	田山 伸一	田村 直弥
会田 正彦	代々木 孝	岡根 典子	石田 進																																		
稲田 雅志	久保田輝男	長谷川美智子	檜山 章一																																		
小島 健一	長島 功	近藤 貞夫	中村 強																																		
藤井 敏生	笹目 雄一	長島 主																																			
高野 雄司	伊野 勝亮	千葉 栄子	川名 美佐																																		
藤崎 剛	新谷 大輔	竹内 文枝	柏 敬祐																																		
平本 敏彦	萩原 茂	笹木 倫代	山中 光枝																																		
加瀬 博正	長谷川正典	皆藤 正造	鈴木 定男																																		
比気 龍司	小林 利英	田山 伸一	田村 直弥																																		
協 議 案 件	・基本設計プランについて																																				
会 議 資 料	別 紙 （ 会議次第、 他 ）																																				
記 録 方 法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録																																				
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開 （傍聴者 人）																																				

【協 議】

(1) 基本設計プランについて

委員長 まずは、基本設計の説明を設計コンサルタントからいただいた後、先日の竹原小学校視察についても含めて意見をいただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

匠建築より資料に基づいて説明

○プランD案の説明

D案：3階建て 長方形 多目的スペースを学年毎に1つずつ設置
(前回の委員会で提案したA案、B案の優れた面を集約)

< A案、B案からの主な変更点 >

- ・登下校の児童の安全性を考慮し、敷地への進入路を東側県道として歩行者動線を2ヶ所とする。
- ・普通教室の面積を増加
- ・放課後子どもプランを校舎内に設置
- ・新しい学習に対応した学習空間の充実
- ・校舎内の諸室の配置変更

○基本コンセプト説明

○新しい学習環境の参考事例

委員長 説明いただいた設計プランについて、先日の竹原小学校視察、その他の視点から意見をいただきたい。

委員 前回、明かりを取るために吹き抜けが必要という話をいただいた。学校では教職員にプランを見せ、意見を聞いているところ。この未来型の設計の説明では、様々な空間があるということだった。メディアホールやセミオープンクラスルームなど、10年後、20年後の学習への対応と伺った。私立の学校であれば、学力的にもある程度揃った子供達がいるが、公立の学校の現状は、特別な配慮を要する子供達が年々増えている。学校職員は、死角がとても多いことを心配している。また、広い空間になった時には、そういった子供達の気持ちが落ち着かなくなり、様々な場所に移動してしまうことが懸念される。限られた職員の中で、多くの子供達の把握が可能かという意見が出

ている。また、吹き抜け部分がガラスになるとのことだった。そうすると、様々な刺激が入り、子供達が更に落ち着かなくなることが予想される。竹原小学校視察時には、教室内になるべく刺激になるものを減らす環境整備を行っており、本校も行っている。様々な特性を持った子供達が一緒に学習していくことを基本として考えると、不安が多い。前は、竹原小学校を視察させていただいた。私個人は、堅倉小学校も以前に見せていただいている。それらの学校に明かり取りは無いが、北側の教室も十分明るい状況だった。なので、できれば吹き抜けのない、竹原小学校のような校舎の方が子供達の現状に合っている気がしている。

委員 今の意見に賛成したい。学校現場は、子供達の把握がしやすいことが一番大事ではないかと思う。子供達に目が届きにくい状況が多くなるのではないかという意見が学校職員から出ている。また、子供達の集中力を高めるためには、クローズ型の多目的教室がある方が子供達に良いのではないかと思う。

委員長 他の委員はいかがか。

委員 建屋の中については、教育現場の意見を尊重し、設計コンサルタントと協議していただきたいと思う。竹原小学校の視察時には、先生から校舎内の細部に渡る箇所まで質問があった。そういったところは、我々が分からない分野。我々は、全体的な協議をさせていただければ良いのではないかと思う。また、学校のアプローチ、スクールバスなどの車両動線と歩行者動線の交差について。徒歩通学児童が体育館の入口と正門から登校するという形と考えて良いのか。入口が2つとなった場合、学校としては問題ないか。現状の南中の正門は狭すぎるため、車が縦列すると身動きが取れない状況がある。開校後は、校地に入りこんだ入口ができるのではないかと思っている。そういったところが非常に重要な事案だと思っている。検討して進めてほしい。

委員 本校の先生から出てきた意見を話したい。メディアホールというスペースがあることは良いが、特別の配慮を要する児童が休み時間などの担任がいない時間に駆け回り、トラブルが起きるのではないかという意見があった。他には保健室の位置についての意見があった。保健室位置が職員室の隣であれば子供達を把握しやすいが、グラウンドで体育を行っている時などに怪我することが多いと想定される。そのため、保健室はグラウンドに面した場所の方が対応しやすいのではないかという意見があった。また、私が以前に勤務していた中学校では、校舎北側の上部が全て窓になっており、明るかったということを話を聞きながら思い起こした。

委員長 設計コンサルタントから基本コンセプトとして、将来の教育環境に基づいた説明がされた。また、学校現場からは心配される点について意見が出された。両方の意見を聞き、他の委員はどう考えているか。

委員 現場で児童を見ている先生にとって使いやすくなければ、良いものが出来ても、子供達のためにはならないのではないかと思う。なので、現場の意見を尊重するような設計にさせていただけるとありがたいと思う。

- 委員 先生に良い教育をしていただくことが親の願い。ただ、設計に関しては、延床面積の関係があるのではないかと。吹き抜けを無くすと面積が増えるのではないかと思う。
- 匠建築 光庭、吹き抜けを造ることによって、延床面積を調整している。
- 委員 設計コンサルタントは、小美玉市以外の小学校においても設計をされていると思う。そこで今までの意見にあったような声は出ているのか。
- 匠建築 私は、光庭を造った学校で死角についてや子供達が落ち着かないといった話は聞いていない。メディアホールなどを整備したことにより、成績が上がったということは聞いている。
- 委員 その学校は、公立の学校なのか、私立なのか。
- 匠建築 私立の学校ではなく、公立の学校となっている。
- 委員 以前、他市の小学校を設計したという話があった。その学校からの意見はどうなのか。
- 匠建築 他市において、子供が落ち着かなくなったといった話は出ていない。その学校の教頭と話をする機会があったが、使いやすいという話だった。メリットを言われていたので、特に問題はないのではないかと思う。
- 委員 オープンスペースを持っている学校に勤務している教員仲間と話をしたことがある。校舎を造った当時はオープンスペースを頻繁に使っていたが、年数が経過していくにつれ、開閉をしなくなるということだった。また、壁がない場合、隣の教室の声が聞こえる状況が出てくるということだった。
- 委員 私も以前は、オープンスペースのある中学校で勤務していた。中学校では、グループ学習ができるスペースがあり、非常に多く活用されていた。しかし、中学校の中でも色々な生徒がおり、本来の活用用途ではないことに使っていた生徒もいた。小学校において、アクティブラーニングでの使い方考えると、低学年の児童は子供達だけでグループ学習をすることは難しい。高学年の児童であれば、図書室などでの活動もできるのではないかと思う。また、学校職員は、階段が両端に配置されていることを心配している。災害時に避難をする場合は、階段に子供達が集中することが予想される。もし、昇降口付近に階段があれば、様々な面で便利ではないかと思う。
- 委員長 他の委員はいかがか。
- 委員 現在の案は、特色のある校舎だと思う。しかし、現在の学校現場に立っている先生方の意見を聞くと、吹き抜けは現状に合わないのではないかと思っている。これは大きな問題だと思う。吹き抜けの有無で構造が全く変わっていく。そこを慎重に考えていかなければいけないと思う。そのようにしないと、将来に様々な問題が出てくるかと思う。なので、先生の意見を尊重しながら校舎を建てていくと良いのではないかと思う。
- 委員 学校現場にいる先生方の意見を十分に尊重していただき、設計を行っていただきたいと思う。私達は、実際に学校現場を見ているわけではない。なので、先生方の意見が大事だと思う。設計コンサルタントもそのように考えていた

だきたいと思う。

委員 コンセプトは非常に素晴らしいと思う。しかし、先生方がこのような話をしている状況を見ると、今まで設計コンサルタントと先生が話をする機会は無かったのか。これほどまでに使いにくいという意見が先生から出ているので、十分に考慮していただきたいと思う。

委員 現場の先生方が使いやすい、子供達が落ち着いて学習できる環境の方が良いのではないかと思う。ある程度の時間がかかると思うが、将来のことを考えれば、変更もやむを得ないのではないかと思う。

委員 提案されている校舎は、中学校から高校の校舎というイメージがある。小学校の時は、大中小のグループ分けで勉強するスペースがなかったということもあると思うが、そういったグループ分けで勉強するのではなく、1つの教室で勉強するというイメージがある。竹原小学校視察には行けなかったが、図面を見る限り、竹原小学校の方が小学校のイメージがある。吹き抜けを設けることによって、大中小のスペースを造っていると思う。理に適っているとは思いますが、もし高校であれば、様々なことができると思う。

委員長 私も副委員長も統合準備委員会の委員として発言させていただきたい。そして、統合準備委員会の総意としていきたいと思う。

副委員長 私は、最初の段階から校舎の案を見せていただいている。その案は前提ではないかという思い込みがあった。先ほども話があったが、学校現場の職員に聞いてみると、多くの意見が出てきた。不安な点や使いこなせていけるだろうかといった声が多かった。私の前任校は、吹き抜けがある小学校だった。竣工後10年程の校舎だった。吹き抜けによって落ち着きがないのかと言われると、そうは言えないと思う。提案されている校舎よりも更に先進的な校舎だった。学年ブロックが独立しており、学校全体を見回していく際には、管理職の立場から難しさを感じていた。メディアホールとは違うが、学年に2教室あり、オープンスペースがあった。実際には、それをなかなか使いこなせない。1番気になっていた点は、オープンスペースがあり、学年ブロックになっていると、1クラスの落ち着きがなくなった場合に学年に波及するという事。そういったことを経験してきている。どちらかという場合に個人的な現場の意見として言うのであれば、本校の現状を考えても竹原小学校のようなタイプが合っているのではないかと感じている。

委員長 私は、昨年まで県内最先端の校舎がある学校に勤務していた。中学生が教科毎に自分達で他の教室に動いて授業に行く形の校舎で先行していた学校が同自治体内にあったので、同じタイプの校舎を造った学校だった。周囲は、全く気質が違うために不可能という話をしていた。実際も上手くいかなかった。自分達で動いて授業に行く教科教室型だった校舎を普通教室型として、在任期間の2年間過ごしてきた状況がある。その中で1番の問題は、死角の問題。可能であれば、多様な教育と新しい学習環境に対応し、従来の校舎に近いものを設計していただけるとありがたいと考えている。竹原小学校の廊

下は2.5mくらいだったかと思う。面積に余裕があるのであれば、その廊下を広げるといったことも行っていただければありがたい。また、メディアホールのような複数学級が入れるような部屋も必要だと思う。竹原小学校や堅倉小学校においても多目的教室があった。先ほど意見にあった保健室の問題や以前の会議でも意見があった階段の配置問題もある。昇降口から階段までの距離が長い。そういったところが気になった。

委員長 委員達は、もし可能であれば吹き抜けではない校舎を設計していただきたいという意見が多い。契約等もあると思うが、事務局ではどうか。

事務局 図面に関しては、学校現場の意見を反映させた上での修正を求めている声が多い。それについては、少々時間を要するかと思うが、変更も含め、再度話をしようと思う。修正の時間と機会を設け、いただいた意見を反映させていく機会を作ろうと思う。

委員長 委員にお願いがある。校舎設計の細部を設計コンサルタントと学校で詰めた後、委員会に入るといった形を取らせていただけないか。

委員 その方が良い。

委員長 では、そのようにしたい。後は事務局に任せたい。

委員長 また、学校へのアプローチについての協議をお願いしたい。入口を2ヶ所造る提案をいただいた。これ以外の案が委員にあれば、お願いしたい。また、先日、雨の日に小川北中に行く機会があった。その時には、自転車が30台しかなかった。そうすると、30台以外の生徒は全て送迎ということになる。そういったことを考えると、雨の日には小学校も送迎が多くなると思う。バスの転回スペースと保護者の送迎スペースは、余裕を持って設置しなくてはならないのではないかと。多くの車が入ってくることが想定されるので、車と歩行者を完全に分離しないと厳しいのではないかとと思う。

委員 現段階で徒歩通学者とバス通学者の比率は分かっているのか。何km以内が徒歩通学なのだろうか。

委員長 事務局でデータはあるか。

事務局 第1回の委員会で説明したように、統合準備委員会は、全体の会議と各内容を話し合う部会がある。スクールバスについては、部会の中で協議を進めていくこととなっている。現時点では、距離の設定などの協議を行っていない。なので、現時点では申し上げることが出来ない。これからの検討課題となる。

委員 バス通学者は送迎ではないと予想されるため、送迎の車の台数も分からないということかと思う。

委員長 今、小川小では送迎の車は、どのくらい来ているのか。

副委員長 雨の日は、多く見積もって20～30台は来ている。コンスタントに20台は来ている。

委員長 車が10台、20台入ってきた場合、提案されているスペースで問題なさそうなのか。

匠建築 提案のスペースは、とても大きい空間となっている。通常は、スクールバスが学校に着いた後、停車している。スペースに入ることが出来る車の台数は、回転半径を除いて13台程度。実際には、更に多くの車が入れる。常にロータリーをスクールバスが回っていることはないので、保護者の車が多く入れるようなスペースは確保できると思う。

事務局 校地の端にある卓球場は、中学校が使用しているプレハブの卓球場となっている。統合小学校には必要ないのではないかと思うので、奥行きに余裕はあるのかと思う。

委員長 卓球場付近については、考慮しているのか。

匠建築 考慮している。卓球場の近くに祠があり、そこに建物がかからないようにという指示があった。

委員 その祠はどういったものなのか。

事務局 以前、小川南中の敷地には、赤身地藏尊があった。その時からの祠なので、あまり触りたくはない。

委員 それは触らない方がよい。

委員長 校舎からグラウンドに降りるまでのスペースはどのくらいあるのか。

匠建築 そのスペースは、10m以上ある。

委員 現在の南中校舎と同じくらいなのだろうか。

匠建築 現在の建物より多少グラウンド側に移動している。

委員長 現在の建物と提案の建物では、どちらの方が大きいのか。

匠建築 現在の建物は、横に長くなっている。提案の建物は、教室3つ分程度横に小さくなっている。卓球場側の校舎の端は、どちらも同程度の位置にあり、校門側が縮まっている。そこにスクールバスのスペースを確保している。

委員長 現卓球場のスペースを有効利用できるような形でお願いしたい。校舎が横に長くなる可能性もあると思う。

匠建築 そうなると、スクールバスのスペースを作れなくなる可能性がある。

委員 校舎の裏手に職員駐車場があると思う。そこへの進入路はどのようになるのか。スクールバスのロータリーと職員駐車場の間は、フェンスなどで仕切るのか。

匠建築 スクールバスのロータリーからの進入を想定している。職員は児童が登校する前に出勤しているので、子供達と先生の車の接触はないと思う。

委員 保護者が現在の卓球場付近まで入ってくる場合、その経路を通ることになると思う。そこが心配な箇所。

匠建築 保護者の車は、スクールバスのロータリー部分までしか入れないように登校時は規制する想定をしている。それ以外の時間帯に保護者などが学校へ入る場合には、余裕が大きくある職員駐車場周辺に停めることが出来る。登下校時のみは、規制をすることを想定し、歩行者と自動車の動線は分ける形が1

番良いのではないかと思います。

委員長 完全に分離というものは、なかなか難しいかと思う。

委員 現在の小川小学校は、近くの素鷲神社や公民館に止められるので、心配なかつたと思う。しかし、統合小学校のアプローチは県道であり、鉾田方面からの車が多いので、渋滞や事故の心配がある。そういったことを信号の移動も含めて検討していただきたいと思う。

委員長 そういったことについては、まず事務局で検討しなくてはならないことだと思うので、なかなか難しい問題になってくるかと思うが、更に良い案を出せるように検討していきたいと思う。

委員 スクールバスは、児童を降ろした後にどのようなになるのか。考えていることはあるのか。

委員長 下校時間まで停めておくことはないのではないかと思います。

委員 バスを委託するか、委託しないかということだと思う。幼稚園は市でバスを用意していただいて、幼稚園の駐車場に停めている。他の統合した小学校は、バスを登下校の時間に委託して運行していることが多いと思う。

委員長 そういったところについては、次回以降に時間をかけて詰めていければ良いと思う。校舎については、今年度中までなので、設計の方をお願いしたいと思う。現状では、歩行者動線を2つに分け、登下校時以外の時間帯は子供達が通るルートを通る可能性があるということ。それを含め、様々な検討をいただければと思う。是非、多様な教育と新しい環境に対応でき、従来の校舎との折衷案のような校舎が敷地の中に収めていくと良いのではないかと思います。その他に何かあるか。

事務局 では、統合準備委員会の意見を参考にし、今後の設計をコンサルタント、学校の先生と検討していきたいと思う。また、今後の予定の話をしたい。第2回の委員会では、12月と1月の委員会で設計をまとめていきたいとしていたが、設計の見直しが必要であるため、内容がまとまり次第、委員会を開催したいと思う。よろしくお願ひしたい。

20:10 閉会